

○ 自己資本（正味財産）比率 【安全性】

総資本（総資産）に占める自己資本（正味財産を含む。以下同じ。）の割合を示す指標である。比率が高いほど負債（借入金）が少ないことになり、財政基盤が強いと判断される。一般的に30%以上が望ましいとされる。

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本（純資産）} \div \text{総資本（総資産）} \times 100$$

○ 流動比率 【安全性】

法人等の短期的な支払能力を示す指標である。1年以内に返済すべき流動負債に占める1年以内に現金化される流動資産の割合を示しており、一般的に100%以上が望ましいとされる。

$$\text{流動比率} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$$

○ 固定比率 【安全性】

固定資産をどの程度自己資本で賄っているかを示す指標である。比率が低いほど固定資産の割合が小さく長期的な安全性が確保される。一般的に100%以下が望ましいとされるが、融資によって100%を超えることも多い。

$$\text{固定比率} = \text{固定資産} \div \text{自己資本（純資産）} \times 100$$

○ 営業利益率 【収益性】

法人等の事業による収益性を示す指標である。比率が高いほど本業において利益が出せていることを表す。一般的に5%以上が望ましいとされる。

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{売上高} \times 100$$

○ 総資産経常利益率 【収益性】

資産からどれだけの利益を生み出したかを示す指標である。比率が高いほど効率性や収益性があると判断される。一般的に5%以上であれば優良企業となるが、業種によって比率が異なる。

$$\text{総資産経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{資産} \times 100$$

○ 総資産回転率 【収益性】

資産がどの程度売上を生み出しているかを示す指標である。比率が高いほど回転率が速く、効率よく売上を生み出していることを表す。一般的に1.0回以上が望ましいとされる。

$$\text{総資産回転率} = \text{売上高} \div \text{資産}$$

○ 営業（事業）活動によるキャッシュ・フロー

本業でどれだけの現金が生み出されたかを表す。一般的にプラスの数値が望ましいとされる。マイナスの場合は、本業が好調でない、又は売掛金の回収が滞っているなどの原因が考えられる。

○ 投資活動によるキャッシュ・フロー

設備投資や資産運用といった投資活動におけるお金の動きを表す。

○ 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入・返済や出資・配当といった企業の資金調達・還元に関するお金の動きを表す。

○ キャッシュ・フロー計算書の分析パターン

タイプ	営業（事業）CF	投資CF	財務CF	状態
①安定型 （事業転換期）	+	+	+	
	本業で十分に利益が出ており、設備投資を行い資金調達もしている。 将来投資を行うために資金を貯めている。			
②改善型 （衰退期）	+	+	-	改善が必要
	本業と資産売却で得た資金を返済に回している。			
③積極型 （事業拡大期）	+	-	+	
	事業は安定し、金融機関から資金調達をして積極的に設備投資をしている。 成長期のキャッシュ・フローともいえる。			
④健全型 （成熟期）	+	-	-	理想
	本業で十分に利益を出し、設備投資や借入金返済に充てている。 理想の状態。			
⑤救済型 （借入依存期）	-	+	+	改善が必要
	本業の赤字を資産売却と借入金で賄っている。借入依存の体質になっているので、営業活動によるキャッシュ・フローの改善が必要。			
⑥リストラ型 （事業縮小期）	-	+	-	改善が必要
	本業の赤字を資産売却によって借入金を返済している。金融機関からの融資が止まった可能性があり、本業の回復が必須。			
⑦勝負型 （成長初期）	-	-	+	
	本業が赤字だが、借入金によって設備投資を行っている。再建中の会社に見られ、事業の初期段階という評価になる。			
⑧大幅見直し型 （経営末期）	-	-	-	危険
	非常に厳しい状況。本業が赤字だが、設備投資を行い借入金返済も行っている。この状況を長く続けることはできないので、財務的な応急処置が必要。			

※表中「+」は数値がプラスであり、「-」は数値がマイナスであることを示す。